

柏樹

題字
南 勇 会長
川口市退職校長会
会報 第15号
平成29年6月1日

教え子と言う財産

土橋兼正



先月、2月16日、72歳になる、かつちゃん、やつちゃん、誠君（何時頃か、

こんな呼び方をしている）3人がひよこりやって来て、私の顔を見るなり「惚けているかと思っていた。」と、ストリート。私が昨年9月末に前触れもなく、サービスタ付高齢者向け住宅に転居したので、こう考えるのも至極当然かも。3人は「先生の居所を探すのに大変だった。」と、ぼやくことしきり。実は幹事役の一人に葉書で、転居を知らせておいたのだが、同級生に伝わっていなかった。その為、今年、1月20日、リアで先生抜きでクラス会をやったと言って、当日のスナップ写真を十数枚持参し、一人一人の近況等を話してくれた。数人を除いて、ほとんどの子は小学生の頃の面影を留めていた。一人

一人の子に思い出があり、懐かしさが入。会の終わりに「先生がよく歌い教えてくれた『トロイカ』を合唱して散会した。」とのこと。

さて、彼等を担任した、昭和29年の頃は、大卒の給料はクンロクと言って9600円、中華そば30円、焼酎の梅割が35円、ビール1本120円、高値で手が出なかった。

未だ、戦後の貧しさや戦前の風習が少し残っていた。4月に、幼・小・中一貫教育の舟戸学園、校長一人、職員室一つの小学校に赴任。4年生の担任。一学年一クラスの小規模校。一クラス54名。机と机の間も狭く、個別指導は難しかった。家庭訪問をすれば、男の子の保護者の大半は「ビシビシやっつて下さい。」と。全幅の信頼を若造教師に寄せて来る。そんなことから、宿直室に男の子を4〜5人泊まらせて、勉強を見てやったり、宿題を忘れると、バケツを持たせ立たせたり、グラウンド1周鬼跳びをさせたり、かなり乱暴な指導をして来た。しかし、彼等は「いい先生に3カ年教わった。子や孫に先生のことを話すことがある。でも、今だ

「つたら首になっちゃうだろうな。」と、冷静に見て感想を言う。然し、情熱を傾注したという自負は誰にも負けないと、今でも思っている。又、40年近くの教職経験を通して、この子達には特別な愛情と親近感を覚える。

帰り際、私の手を両手で握り、「暖かくなったら、クラス会をやるから。」と、手を振り振り帰って行った。教師冥利に尽きる。

「生きがい」とは

倉林 隆



—正直に生きて傘寿の春迎ふ—
気がつけば、傘寿の春。まだその

実感はないが、目を閉じると天の声が聴えて来る。「お前は、何をしにこの世に生まれて来たか、そして、お前の生きがいは何か」と…。

哲人、中村天風は「人生は、自分の生命に喜びを出来るだけ多く味あわせようとすると同時に、本当の生きがいがある」と言う。

師の言う「喜び」とは何か、そしてそれを実感するには、どうしたらよいか、それが、私が求め続けている課題の一つである。

—靈性を満たす喜び山笑ふ—

そして、師は言う。「喜びは、自分の生きることに対する目的が完全に達せられた時である」と。しかし、それは、本能満足の本位とした人生ということではない。本能、感覚、感情、理性満足という4つの満足を超越した一段高いものに生活目標を置いた「靈性の満足だ」と…。

「靈性の満足」…。「何も難しく考えることはないよ、分かりやすく言えば人のためになることを目標とする生活のことだ」と。「日常の生活の中で、自分の言行を出来るだけ世のため人のためになるよう心がけるだけでいい。そして、それを人生の愉しみとする。それが、靈性満足の生活である」と…。

—たんぼぼ置かれた場所で咲き盛る—

それぞれが、それぞれ、置かれた場所で咲き盛り、一隅を照らす。その場が必要とされ、少しでも役立つという満足。そこには、永遠に咲き盛る生命の喜びが、あふれている。

私は、今、柏樹会、ゴルフ、句会、天風会、シニア大学等の多くの人達との出会いを通し、その日、その時を大切に、日々の幸せを享受している。

時は、正に、春たけなわ。山は笑い、野には、色とりどりの草花が咲き乱れ、小鳥たちが舞う。新羅万象が、生命の躍動に包まれている。

柏樹会総会

祝賀会・懇親会



平成29年
5月14日
(日)、川口
市退職校長
会総会が青

木会館で開催されました。

南勇会長の挨拶に続き、奥ノ木
信夫市長・茂呂修平教育長・栗原
喜一郎顧問・鈴木彰典市立校長会
長の祝辞をいただきました。

議事に入り、事業報告及び計画
決算及び予算が承認されました。

その後、祝賀会・懇親会が催され、
盛会裏のうちに閉会いたしました。

瑞寶雙光章受章

おめでとうございます



笠原康男先生



深野 章先生



後藤典夫先生



渡邊忠三先生



矢島敏夫先生



中村剛毅先生



新入会員紹介 今年度の新入会員は25名

—ちよつとい話—

生命の時間

高木くみ子

ご縁とは不思議なものである。東京
家政大学進路支援センター、附属女子
中学校・高等学校にそれぞれ4年、計
8年間在職し、3月末に退任した。

修了式の後、離任式があり、「私的
な話でもよいですか」と前置きを
してから退任の挨拶をした。

自分の生命の時間を考えると、どう
しても取り組みたいことが三つある。

一つ目は、「私は、自称『地球号乗
組員』『世界の旅人』です。元気なう
ちにストップしている世界の旅を再開
したいと思っています。」

二つ目は、「内緒にしましたが、
実は私は最高齢院生です。押谷由夫研
究室で道徳の研究をしています。平成
29年度は修士論文を書かなくてはな
りません。勉強に集中したいと考えて
います。」

三つ目は、「高木教育研究所を開き
たいのです。自宅の応接間で、『お茶
とクッキーは何時でもあります。何も
できませんが聞くことはできます。』
今までお世話になった先生方への恩返
しができたら…と考えています。」

お話を聞いてお役にたてるように

するには、教育の最前線の情報をもつ
ていることが必要である。道徳教育が
平成30年度から小学校で教科化(中学
校は平成31年度から)、英語教育の導
入も本格化し、さらにプログラミング
教育も入る。多くのまじめで一生懸命
な先生方のために何かできないか、そ
う考えて学ぶことを始めたのが最高齢
院生のきっかけである。三つ目は、生
命の時間が許す限りライフワークにし
たいと考えている。

離任式の後、生徒から手紙をもらっ
た。略々将来、助産師になり、たく
さんの赤ちゃんを救い、お母さんにな
ろうとしている人を安心させることが
できる人になりたい。子どもがほしく
てもできない人や金銭の問題で子ども
を棄ててしまう人が気軽に相談ができ
る場所を設けたい。赤ちゃんの幸せが
第一です。助産師としてはもちろんで
すが、一人の女性として、人を差別し
ない、優しい女性でありたいと思っ
ています。偏見のない人間でありたいと
思っています。略々
返信をしたためた。

「夢は叶う 夢は叶えるもの」いつ
も応援しています！」と。

8年間は、驚きと喜びと感動の日々
であった。「若さとは年齢にあらず心
のもちようである」と都合のよい名言
を引いて自分を鼓舞している。いただ
いたご縁をこれからも紡いでいきたい。

集団の教育力

佐藤 修

川口市に管理職として来る前、私は所沢の新設された小学校に10年間勤務していました。現在は、廃校になつてしまいましたが、担任最後の学校でもあったので強く思い出のある学校になりました。

新設校は、何もかも一から創り出さなければならぬので、大変な面もありましたが、それだけ創る喜びもあり情熱をもって取り組みました。

開校当初は、順調にスタートしましたが、夏休みに万引きなどの生徒指導上の問題が発生し、教職員一丸となつて課題解決のために取り組みました。

次年度からの学校研究は、「体育科」に決まり児童の健全育成をめざして体力向上に取り組みました。

特に、心に残ったのは「集団走」でした。毎朝、低中高に分かれて3分間一斉に走りました。都内から転校してきた児童の保護者には、刑務所のようにと言われたこともありましたが。しかし、刑務所でなぜ集団走が行われているのかを考えると納得がいきます。個人個人に協調性がないから、罪を犯すことにつながります。全員が同じ速度で走ることは、自分の欲求を抑え、我慢してみんなと同じ行動をすることで、友達の良い気持ちを考えていくことができ

ます。また、集団の中で遅く走る子を励ましながら走ることは、助け合いの精神を培うことにも役立ちます。

この研究を通して、問題行動を解消するのに大きな効果がありました。初めはかなり厳しい面もありましたが、集団走だけでなく自由走も取り入れるなど様々工夫改善して、子供たちの意欲を大切にしながら取り組んできました。毎日朝マラソンをすることで、子供たちの目覚めの助けにもなり、一時間目の授業にもしつかりと取り組めるようになりました。

この学校では、合唱にも力を入れました。音楽コンクールなどにも学年で出場し、入賞することで自信と誇りをもたせ、合唱の美しさと集団の力の素晴らしさを味わわせることができました。日光の戦場ヶ原で学年全員が合唱したときの子供たちの喜びと感動を、今でも忘れることができません。

もう一つ、集団の力を高めるのに、硬筆展や書き初め展の取組です。全校挙げて取り組んだので、どの学年も市内では賞を総なめでした。ほとんどの子が学級の代表に選ばれようと努力するため、学級や学年全体の力が底上げになります。一人一人努力すれば、結果が報われることも学びました。

教育は、集団で行うことでより大きな効果が生まれることを、この学校で身をもって知ることができました。

1 各部の活動から1

柏樹会親睦旅行

22名を乗せたバスはリリア前を予定通り出発しました。バスは、一路、東北道から圏央道に入り、千葉県の関宿に向かいます。ここには、室町時代、古河公方足利氏の配下によって築かれた関宿城がありました。かつては、本丸・二の丸・三の丸の部分だけでも6000坪あったということですが、現在は、河川改修のために、ほとんどが埋没しており、わずか本丸の曲輪と城趾の碑を見ることができのみです。ここには、県立の関宿城博物館があり、4階には、展望室があり、利根川や江戸川の流れをはじめ、広大な景色が眼下に広がっていました。

次に向かったのは、水海道風土博物館坂野家住宅です。ここには、タイムスリップしたような里山風景の中に、豪農の館があり、よく映画やドラマのロケ地として使われているということでした。割烹料理屋で昼食をとり、午後は、アサヒビール茨城工場と山中酒造に立ち寄り、出来たてのビールと日本酒を味わいました。

帰路のバスの中は、いつものように笑いで埋め尽くされ、親睦を図ることができました。(谷口治郎)

文学散歩

10月27日(木)、22名の参加者が午前10時にJR東京駅丸の内中央口に集合しました。好天に恵まれ、絶好の文学散歩になりました。

最初に、大手町の一角にある平将門首塚を訪れました。その後、皇居お堀端に出たところで、数名の方の帽子がお堀の中に飛ばされるといふハプニングもありました。大手門から皇居東御苑に入り三の丸尚蔵館を見学した後、見晴台から大東京丸の内ビルを一望しました。休憩所により、富士見櫓、忠臣蔵「松の廊下跡」を見て、天守閣跡の天守台に登りました。北桔橋(きたはねばし)門から出て、北の丸公園内にある国立公文書館に寄りました。学制発布で有名な言葉、「邑に不学の戸なく、家に不学の人ならしめんことを期して」の文章も拝見しました。その後、毎日新聞社の入っているパレスサイドビル地下食堂街の赤坂飯店で、昼食の中華料理を食べ、お酒も進んで会話も弾み、旧交を温めることができました。



平成28年度 柏樹会文学散歩 天守台にて H28.10.27

(佐藤 修)

集団の教育力

佐藤 修

川口市に管理職として来る前、私は所沢の新設された小学校に10年間勤務していました。現在は、廃校になってしまいましたが、担任最後の学校でもあったので強く思い出のある学校になりました。

新設校は、何もかも一から創り出さなければならぬので、大変な面もありましたが、それだけ創る喜びもあり情熱をもって取り組みました。

開校当初は、順調にスタートしましたが、夏休みに万引きなどの生徒指導上の問題が発生し、教職員一丸となって課題解決の取り組みました。次年度からの学校研究は、「体育科」に決まり児童の健全育成をめざして体力向上に取り組みました。

特に、心に残ったのは「集団走」でした。毎朝、低中高に分かれて3分間一斉に走りました。都内から転校してきた児童の保護者には、刑務所のように言われたこともありましたが、刑務所ですら、刑務所でなぜ集団走が行われているのかを考えると納得がいきます。個人個人に協調性がないから、罪を犯すことにつながります。全員が同じ速度で走ることは、自分の欲求を抑え、我慢してみんなと同じ行動をすることで、友達の良い気持ちは考えていくことができ

ます。また、集団の中で遅く走る子を励ましながら走ることは、助け合いの精神を培うことにも役立ちます。

この研究を通して、問題行動を解消するのに大きな効果がありました。初めはかなり厳しい面もありましたが、集団走だけでなく自由走も取り入れるなど様々工夫改善して、子供たちの意欲を大切にしながら取り組んできました。毎日朝マラソンをすることで、子供たちの目覚めの助けにもなり、一時間目の授業にもしつかりと取り組めるようになりました。

この学校では、合唱にも力を入れました。音楽コンクールなどにも学年で出場し、入賞することで自信と誇りをもたせ、合唱の美しさと集団の力の素晴らしさを味わわせることができました。日光の戦場ヶ原で学年全員が合唱したときの子供たちの喜びと感動を、今でも忘れることができません。

もう一つ、集団の力を高めるのに、硬筆展や書き初め展の取組です。全校挙げて取り組んだので、どの学年も市内では賞を総なめでした。ほとんどの子が学級の代表に選ばれようと努力するため、学級や学年全体の力が底上げになります。一人一人努力すれば、結果が報われることも学びました。

教育は、集団で行うことでより大きな効果が生まれることを、この学校で身をもって知ることができました。

1 各部の活動から

柏樹会親睦旅行

22名を乗せたバスはリリア前を予定通り出発しました。バスは、一路、東北道から圏央道に入り、千葉県の関宿に向かいます。ここには、室町時代、古河公方足利氏の配下によって築かれた関宿城がありました。かつては、本丸・二の丸・三の丸の部分だけでも6000坪あったということですが、現在は、河川改修のために、ほとんどが埋没しており、わずか本丸の曲輪と城趾の碑を見ることができのみです。ここには、県立の関宿城博物館があり、4階には、展望室があり、利根川や江戸川の流れをはじめ、広大な景色が眼下に広がっていました。

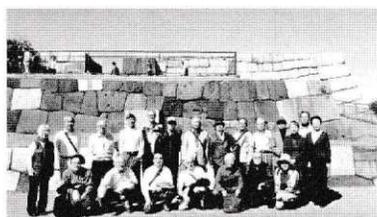
次に向かったのは、水海道風土博物館坂野家住宅です。ここには、タイムスリップしたような里山風景の中に、豪農の館があり、よく映画やドラマのロケ地として使われているということでした。割烹料理屋で昼食をとり、午後は、アサヒビール茨城工場と山中酒造に立ち寄り、出来たてのビールと日本酒を味わいました。

帰路のバスの中は、いつものように笑いで埋め尽くされ、親睦を図ることができました。(谷口治郎)

文学散歩

10月27日(木)、22名の参加者が午前10時にJR東京駅丸の内中央口に集合しました。好天に恵まれ、絶好の文学散歩になりました。

最初に、大手町の一角にある平将門首塚を訪れました。その後、皇居お堀端に出たところで、数名の方の帽子がお堀の中に飛ばされるというハプニングもありました。大手門から皇居東御苑に入り三の丸尚蔵館を見学した後、見晴台から大東京丸の内のビルを一望しました。休憩所により、富士見櫓、忠臣蔵「松の廊下跡」を見て、天守閣跡の天守台上に登りました。北桔橋(きたはねばし)門から出て、北の丸公園内にある国立公文書館に寄りました。学制発布で有名な言葉、「邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめんことを期して」の文章も拝見しました。その後、毎日新聞社の入っているパレスサイドビル地下食堂街の赤坂飯店で、昼食の中華料理を食べて解散しました。お酒も進んで会話も弾み、旧交を温めることができました。



平成28年度 柏樹会文学散歩 天守台にて H28. 10. 27

昼食の中華料理を食べて解散しました。お酒も進んで会話も弾み、旧交を温めることができました。(佐藤 修)

柏樹会ゴルフクラブ

本クラブは、年4回の交流コンペを行っております。私は昨年度から末席に加えて頂きました。先輩方は、気さくな方ばかりで、和気藹々とした雰囲気の中、ラウンドが行われます。ですから、私のような若輩者でも快くプレーすることが出来ます。諸先輩方の中には、古希は言うに及ばず、傘寿を超えてらっしゃる方もおります。

続いて、いつも元氣な先輩方のプレーぶりを簡単に紹介します。

年齢を全く感じさせない豪快なドライバーショット。匠の技を彷彿とさせる絶妙なアプローチショット(寄せ)。そして、芝目を的確に読み切った素晴らしいパッティング等々。こうしたプレーが随所に見られ、私など圧倒させられるばかりです。近いうちにエージシュート(年齢以下のスコアでプレーを終える)が見られるかもしれません。とても楽しみです。

さて、健康だからゴルフが続けられるのか、ゴルフをしているから健康でいられるのか。そこで、埼玉県教育委員会の体力向上に向けた合言葉「ゴルフに読みかえてみます」「コツコツときたえたゴルフは たからもの」。元氣で末永くプレーを楽しむことが会員の願いであり、私の目標でもあります。

(松本光男)

写真クラブ

写真クラブの主な活動は、年2回の撮影会と研究会です。撮影会は季節を変えて半日ほどの撮影を行います。モデルを囲んでの撮影会というわけではなく、各自がそれぞれ被写体を見つけて自由に撮影をするという内容です。撮影地は新緑や紅葉の時期にその素晴らしさが味わえるような近場の庭園や公園など名勝・景勝地などに設定しています。昨年度は春は豊島園、秋は王子の飛鳥山公園に行きました。飛鳥山公園では、春と冬の年に2度開花するという珍しい品種の10月桜と呼ばれている桜を見ることができました。私たちには良い被写体となり、皆いろいろな角度から、またズームアップしたりして撮っていました。

研究会は撮影会の約2週間後に設定し、撮影会で撮った写真や個人的に撮った写真などを持ち寄って開かれます。研究会では、『撮影の狙いはなんだったのか』『露出・シャッタースピード・感度などはいくらくらいだったのか』など参加者がそれぞれ自分の作品を説明し、その後全員で意見や情報の交換を行なっています。

この写真クラブの活動も22年も続いており、今後も親睦を兼ねながら続けられたらいいと思っています。

(宇多川正博)

釣りクラブ

大漁・大漁・大酒

釣りクラブでは、年2回の釣行と、旨い魚を食する会の3つの事業を行なっています。

鱈の船釣りは、天候にも恵まれジャンボサイズの鱈が大漁でした。当日の船宿のホームページにはジャンボ鱈を一荷で釣り上げた三浦会員の写真が掲載されました。

江戸川放水路でのボートによるハゼ釣りも大漁でした。台風18号と秋雨前線の影響で雨が降り始める前の2時間弱の釣りでしたが、入れ食い状態で一人50匹強の釣果でした。前回のハゼ釣りのリベンジを果たせました。

旨い魚を食する会は、今回も蔵の寿司店で「デリシャス・ランチ」をいただきました。アルコールも入り「善悪が大切か損得が大切か」という三浦会員の熱弁も含め盛会でした。この会のみを楽しみにしている会員もおります。釣に参加されなくても旨い魚を食する会に参加されることは大歓迎です。

本年度も、鱈の船釣り、ボートのハゼ釣り、旨い魚を食する会の3つの事業を計画しています。多くの皆様方の参加をいただき、楽しい時を共有できることを願っております。

(江川 剛)

絵画クラブ

絵を描き、研究会で議論し、元氣になりましょう

平成28年度の活動は会員が倍近い19名となりました。嬉しい限りです。講師の濱口先生の「褒め上手」に乗せられ、意欲的に、楽しく和やかに活動しています。二ヶ月に1回の活動です。

絵画は「上手い、下手はない！氣持ちは大切である！」と確信し描いています。なかなかうまく描けないのですが、丁寧に指導していただけるので少しずつではありますが、絵画になってきているかな？勿論最初から素晴らし絵を描く方、毎回どんどん上手になっている方も大勢おります。写生会も実施されました。当日はやや寒かったのですが、日当たりの良い場所、日向ぼっこしながら描くのも気持ちが落ちついて、とても良いものでした。

描き終わった後は、皆さんの作品を並べ、感想を述べ合います。自分では思いもつかないような助言をしてくれる方もおり、大変勉強になり、次への意欲がわいてきます。

勿論、研究会も毎回開催されております。ゆつたりとしてとても楽しいひと時です。絵画クラブで思い切り表現し、活発に話し合い、元氣になって、おうちに帰りましょう。(渡邊秀人)

英会話クラブ

レッツ トライ イングリッシュ

昨年7月、有志4名で英会話同好会を立ち上げて、月1回の活動を細々と続けてきました。お蔭さまで、今年度の総会でご承認をいただきまして「英会話クラブ」として活動することになりました。

現在、会員は6名。毎月1回第4木曜日の午後1時～3時、芝園分室または市内公民館で活動しています。

活動目標として次の2点を掲げています。

- ① リスニングや会話能力を高め、会員相互の親睦を図る。
- ② 2020年東京オリンピック・パラリンピックの私設ボランティアガイドを目指す。

初級英会話テキストを使い、元英語教師の優しい指導の下、会員のほとんどは初心者ですが、毎回、楽しく英会話を学んでいます。ゆくゆくは海外研修旅行等も考えていますので、興味関心のある方は是非参加してください。

人生90年。世界は情報化・国際化に向け、急速に発展しています。すでに小学校でも外国語活動が取り入れられています。英会話で迎える「東京オリンピック・パラリンピック」で一緒に活動しませんか？

(秋山恵子)

学校安全と心の教育

前川口市立榛松中学校長

清水幹明

本校は、平成28年10月27日に学校安全の分野で、文部科学大臣表彰を受賞しました。以下本校でのこの取組についてご紹介いたします。

自然災害に備えた防災や避難、交通規則の定着、防犯対策など命を守る安全教育の役割は幅広くあります。事故や災害から身を守り、また災害等起きた後、集団としてどう行動するか、本校では実生活に結び付けるための効果的な指導方法について模索を続けながら実践しています。

1 背景

平成13年、大阪府で起こった小学校乱入殺傷事件以後、本校でも門扉の整備、来校者への対応等防犯対策が進められました。一方地域との交流が疎遠になることが危惧されました。そこで地域との連携を図ることを経営方針に据えた安全教育を進めました。

2 多様な避難訓練

各学期に行う避難訓練は地域性を踏まえたものに行っています。地震・火災・竜巻を想定した避難訓練、特別教室授業時や部活動時からの避難訓練、日時予告をしないところからの避難訓練と教員と生徒の対応力強化を図る工

夫をしています。また、保護者への引渡しや集団下校ができるよう地域の地区別班を編成し速やかで安全な下校ができるよう準備しています。

3 全校あげての命の教育

本校は道徳教育を継続して研究しています。その中で「命あるものの役割とは？」といった命を見つめる授業を実践しています。また生徒会活動としていじめ撲滅への取組や命を大切にす



心臓の鼓動を感じる聴診器体験

る活動、校長による命の尊さを学ぶ読み語り、生命誕生学習、生命の相關図作りなど横断的活動を実践しています。災害時の救急法の学習も実践しています。震度7の地震が起こったときを想定してブレインストーミングを活用した学習、三角巾を使うた包帯法の学習、止血法など学校保健との関わりを充実させて、安全意識を高めています。

4 地域とのつながりを強化する

地域との連携に力を入れて取り組んでいることは本校の自慢の一つです。保護者・教員・地域・生徒による毎朝のあいさつ運動は何代も前の校長先生から引き継がれ継続しているもので



地域の夏祭りの準備に参加する生徒

地域の人の防災備品の使用法を学び合ったり、備蓄品の確認を一緒に行ったりしています。

顔見知りになっておくことが、大規模災害が発生したとしても、速やかに地域の復興へ生徒が主役となって活躍できるのだと考えています。

今回紹介した取組のもととなる道筋は、前校長の秋山恵子先生をはじめとする当時の教職員、保護者、地域のみならずが整理されたものです。感謝申し上げます。

編集後記

今回で2度目の編集の仕事をさせていただきました。原稿依頼した皆様のご協力により第15号が発行でき、胸をなでおろしています。感謝です。(村田文男)